

国語

【注意】

この問題はマークシート問題と記述式問題とにわかれています。

設問部分に「マ」とあるものはマークシート問題、「記」とあるものは記述式問題です。マークシート問題・記述問題ともにそれぞれ全問が通し番号になっていますが、記述式問題は設問ごとに個別にわけた解答欄となっています。

それぞれ所定の用紙・箇所解答を記してください。

第1問 次の文の傍線部の読みを「ひらがな」で書きなさい。（慣用読みは正解としない）

記1 今回の傷が癒えるまでにはかなりの時間を要するであろう。

記2 他のスタッフの悪評を吹聴してまわることは慎みたい。

記3 ライバルをはるかに凌駕する成果をあげた。

記4 これまでのプランが一気に雲散霧消するおそれがある。

第2問 次の漢字（送りがなを含む）の読みが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ1 跨ぐ〔こぐ〕

マ2 綻びる〔ほころびる〕

マ3 必定〔ひつてい〕

マ4 眉間〔まゆま〕

マ5 往生際〔おうじょうぎわ〕

第3問 次の文の傍線部の「漢字」表記として正しいものをひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ6 批判的意見に対してコウベンする。〔1〕硬弁〔2〕行弁〔3〕抗弁

マ7 多年にわたりコンイにしている知人の助力を得る。〔1〕懇意〔2〕今意〔3〕魂意

マ8 危険度はすでにリンカイ点に達している。〔1〕倫界〔2〕臨界〔3〕隣界

第4問 次の文の傍線部のカタカナを文意に即して「漢字」で書きなさい。各設問には異なる熟語が入ります。また、同じ解答が複数箇所に書いてある場合はすべて誤りとします。

記5 シュウチを集めて問題解決の方策を探る必要がある。

記6 実習に持参すべきものをシュウチ徹底するよう責任者に指示する。

記7 シュウチ心を捨ててかからねばならない事態が発生した。

第5問 次のそれぞれの語の対義語ないし類義語をあとの語群からひとつ選び、記号で答えなさい。また、対義語の場合はA、類義語の場合はBを、それぞれ区分欄に記しなさい。

記8 失墜

記9 敏速

記10 聡明

記11 拘禁

記12 逸材

【語群】

ア. 昇天 イ. 挽回 ウ. 許可 エ. 延着 オ. 緩慢
カ. 凡才 キ. 漏洩 ク. 利発 ケ. 光彩 コ. 釈放

第6問 次の慣用表現の空欄に入るものともふさわしい語句をあとの語群からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ9 「」をなめる

「1」苦勞 「2」苦渋 「3」苦杯 「4」苦悶

マ10 青筋を「」

「1」引く 「2」なでる 「3」返す 「4」立てる

マ11 合いの手を「」

「1」打つ 「2」引く 「3」たたく 「4」握る

第7問 次の語句の意味としてもっともふさわしいものをあとの選択肢からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ12 等閑視する

「1」物事を軽くみて放っておくこと 「2」のんびりと時間を過ごすこと

「3」相手を公平に扱うこと 「4」事態を冷静に観察すること

マ13 のべつ幕なし

「1」恥をかかされること 「2」しつこく言い訳をすること

「3」ひっきりなしに続くこと 「4」自分の出番がないこと

マ14 琴線に触れる

「1」怒りの感情を引き起こすこと 「2」貴重な物品を手に入れること

「3」他人のプライバシーに踏み込むこと 「4」感銘や共感の感情を与えること

第8問 慣用表現を用いた次の文の空欄には、それぞれ身体の部位をあらわす漢字一文字が入ります。文脈から判断してもっともふさわしい漢字一文字を記しなさい。同じ漢字を複数回使用することはできません。

記13 苦しいときに世話になった恩師には今でも「 」が上がらない。

記14 グルメで知られる友人は「 」が肥えている。

記15 痛くもない「 」を探られるのは気分が悪い。

第9問 次の傍線部のかなづかいが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ15 おうへい（横柄）な態度

マ16 じょうちよお（冗長）な発言

マ17 まじか（漢字略）に迫る

マ18 りずめ（理詰め）で話す

第10問 論述には、常に論理的に正しいものと、常に正しいとはかぎらないものとがありま
す。次の文章が論理的に常に正しければマーク欄「1」を、常に正しいとはかぎらなけれ
ばマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

【注】「ゆえに」の前の二つの文の叙述内容は常に正しいものであると仮定します。また、叙
述の内容が実社会の現実と合っているとはかぎりません。

マ19 この専門学校の実習用白衣は業者が指定されている。この実習服は業者が指定され
ていない。ゆえにこの実習服は白衣ではない。

マ20 婦人科がある医療施設はA市では駅周辺にある。A市のこの病院には婦人科がない。
ゆえにこの病院は駅周辺にない。

第11問 次の二つの文の論述内容が同じである場合にはマーク欄「1」を、同じでない場合
にはマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ21 ① A市の高齢者施設はすべて歯科検診がある。

② A市で歯科検診があるのはすべて高齢者施設である。

マ22 ① この患者のリハビリは必ず偶数日に実施される。

② この患者は偶数日には必ずリハビリが実施される。

第12問 次の文と論理的に同じ内容となる文を選択肢からひとつ選び、該当するマーク欄を
チェックしなさい。

【注】 叙述の内容が社会の実態と合っているかどうかを問うものではありません。

マ 23 この高齢者施設の看護師はすべて、病院勤務の経験がある。

〔1〕 病院勤務の経験がある看護師であれば、それはこの高齢者施設の看護師である。

〔2〕 この高齢者施設の看護師以外はすべて、病院勤務の経験がない。

〔3〕 病院勤務の経験のない看護師であれば、それはこの高齢者施設の看護師ではない。

第13問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

入社試験であれ、重要な仕事であれ、何かを前にして不安な緊張にかられることがある。
多かれ少なかれ、そういう時は、誰だって失敗するのではないかという恐れをもち、不安
な緊張にかられる、しかし、その度合のひどい人と、イザという時に集中できる人とがいる。

この両者の違いは決定的だが、どうしてこの差が出てきてしまうのだろうか。

それは幼い日、周囲がわれわれに失望したかどうかということから出てくる。そして、こ
れこそが、この問題を考える出発点なのである。

幼い日、われわれは周囲の人の自分に対する反応によって、自分自身を判断した。周囲の
反応、ことに親の反応は、自分を映す鏡であり、その鏡に映る自分を自分と考える。

幼少の頃、親に失望された人は、自分自身に失望する。

親の期待を実現しそなうて、親に失望された子どもは、成長してからも、他人の期待を
実現しそなうと、他人に失望されると感じてしまう。そして、何かを試される時は、他人
に失望されることの恐怖に、不安な緊張を覚えるのである。

すぐ「かたくなる」人というのは、自分の小さい頃をふり返ってみれば、それを理解でき
るのではなからうか。

幼児期に自分の行為ひとつで、他人があからさまに称賛したり失望したりした原体験を
もった人がいる。そのような人は、成長してからも、自分の行為によって自分に対する他人
の愛が変化したり失望されると感じてしまう。

部屋をかたづけたことで親からほめられ、部屋をかたづけずにいたことで親から叱られる。
ここまではどこでも同じである、問題は、部屋をかたづけないで叱られた時、叱られたにも
かわらず、それでも子どもが、自分は親に愛されていると感じられたかどうかなのである。

成績が悪ければ親に叱られる。問題は、成績が悪くて親に「もっと勉強しろ」といわれて
も、それでも自分は愛されていると感じていたか、そうでなかったかということなのである。

この感じ方の違いが決定的なのである。

親に落胆され、ため息などつかれて、ありありと失望の色をあらわされた子どもは、きつ
と感じるだろう、自分が愛される条件は、部屋をきちんとかたづけることであり、いい成績
をとることであると。

子どもの頃は誰でも親に叱られる。問題は、子どもが叱られても親に愛されていると確信できていたかどうかということである。

すぐに不安な緊張を覚えてかたくなる人、他人の反応に歪んだ敏感さをもつ人、これらの人々は、小さい頃叱られた時、自分は愛されていないのだと感じた人である。

子どもの頃親のいいつけを守り、従順な「よい子」であることが、親の愛を獲得する条件だと感じていた人が、すぐに「かたくなる」のである。

周囲に受け入れられている人が失敗することと、受け入れられていない人が失敗することとは、まったく意味が異なる。受け入れられていない人は、失敗するかもしれないと思えばストレスを感じるであろうし、失敗すればそれに苦しむであろう。

同じ叱るという行為が、どうして子どもに違った影響を与えるのか。

それは親の情緒の成熟の問題である。つまり、親が自律性を獲得しているか、まだ依存心が強いということである。

別の言葉でいえば、親が自分の心の満足を他人の言動に求めているかどうかということである、親が自分の心の空しさを他人に満たされるのを期待しているかどうかということである。

自分が必要だと思っているものは、他人を懐柔したり脅かしたりしてでも得ようとする人がいる。

親がこのような人間であれば、子どもは叱られることによって深く傷つく。

親の必要とする愛を子どもが与えなければならぬ時、子どもは自由を感じることができない。親が自分自身に頼って生きようとしている時、子どもはありのままの自分であることが許されると感じる。

われわれは大人になってからでも、どうもあの人というとき重苦しいという時がある。それは、押しつけがましい人、つまり、他人の言動によって自分の心の空しさを満たそうとしている人と一緒にいる時である。

子どもは、大人とは比較にならないほど敏感である、しかも、まったく無力である。

自分の生存を全面的に他に依存している人に、心理的に依存された子どもの重圧感というのは、想像を絶するものがある。子どもに心理的に依存する親の内容というものを考えると、寒けさえ感じる。

つまり、そういう親は依存心が強いから、他人の眼を気にする。自己中心的、利己主義、自分だけが可愛い、卑怯なのである。

しかも、自分の心の空しさを子どもの言動で満たそうとして、子どもにベタベタしながら、それを子どもへの愛と錯覚している。

自分の心の空しさを満たすものを他人の言動の中に求める人は、結局満たされることがないから、いつまでも他人に不満で、かつ心は空しい。

そして、いつまでも満足を求めて他人にまわりつくのである。

マ24～29 次の各文が本文の内容と合っていればマーク欄「1」を、合っていない、もしくは本文に該当する記述がない場合はマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ24 部屋をかたづけなくても部屋をかたづけなくても、いつでも親から叱られる経験をする
と、親というものを信じていることができなくなる。

マ25 自分自身を頼りに生きることをしていない親から心理的に依存された子どもの重
圧感、想像を絶するものである。

マ26 他人の眼ばかりを気にする親は、自分だけが可愛い依存心の強い人間である。

マ27 親から叱られてばかりいた子どもはだれしも、大人になってからも同じように叱ら
れることによって深く傷つくようになってしまう。

マ28 同じように叱ったとしても子どもに異なる影響を与えることには、親が自律性を獲
得しているかどうかが関係している。

マ29 親から落胆され、失望の表現を向けられた子どもは、他人に不満ばかり抱き、空し
い心を抱えた大人になってしまう。

第14問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

【A】 健康的な生活をすれば、寿命も伸びるとされています。同時に、その人が長生きをすれ
ばするほど、認知症になる確率は高まります。人が生まれてから死ぬまでという人生でみれ
ば、認知症になる前に別の原因で亡くなるか、認知症になってその後亡くなるかということ
になるでしょう。医療が発達し、感染症やがんといった病気へ対策がされてきた結果とし
て、長く生きる人が増え、その結果として、人生の最後のほうに、認知症とともに生きるラ
イフステージが出現したということになります。認知症の人が一定の割合、暮らしている社
会、認知症の人が普通にいる社会というのは、長寿社会の必然の帰結なのです。

私の周りにいる中高年の方々にうかがうと、認知症にだけはなりたくない、そのために、
食事や運動に気をつけて、「ボケ」ないようになるべく頭を使ったり、人と会うようにし
たりしていると話す人が大勢います。人と交流をして、日々打ち込むことがあるというのは、
とても素敵なことですし、そのことによって暮らしの質が向上したり、健康状態が保てたり
するというのは、その通りだと思えます。しかし、認知症とともに生きるステージの出現が、
長寿社会の帰結なのだとすると、誰もが長生きすれば、認知症とつきあうことになるのだと
いう事実には向き合えないといけないのではないかと思います。

認知症にならないことばかりに力を注いで、いざ認知症になったときのことを何も考えて
いないという現状は、① ようなものです。リスクについての考え方や備え方は人それぞれ
ですが、事故は一定の確率で必ず起こるものです。認知症についても同じです。一定の確
率で必ず認知症になるという事実を無視して、多くの人が認知症にならないことを願い、認
知症になってからの備えをしていないという社会のあり方には疑問があります。

〔B〕認知症になることが特別でなくなっていくなか、認知症の人自身による発信も増え、社会的な「ア」も徐々に大きくなってきています。認知症の人による講演会は全国各地で開催されており、認知症の人たちによるグループや団体も各地に生まれています。二〇一四年には、認知症の人による全国組織「日本認知症ワーキンググループ」(その後、法人化にともない日本認知症本人ワーキンググループに改称)が設立され、運転免許など認知症に関する問題について、当事者から「イ」な意見の発信がされるようになってきました。

認知症の人に診断後からの話を聞くと、多くの人が、認知症と診断を受けた直後はどうすればいいかわからなかったが、当事者の講演会や地元のグループで仲間と出会ったことで、

②

そうです。

仙台の丹野智文さん(当事者)に初めてお会いし、息子くらいの年の丹野さんにAグチをいっぱい言ったのによく話を聞いていただき、スッキリしたこともありました。いっぱい力を頂いて自信になりました。私は向こうに光明が見えた気がしました。

＊＊

私も診断後は、暗いトンネルに入ったような経験をしています。(中略)

この空白の期間を抜けるために、サービス以外の道を探そうとしたのが初めの一步でした。仲間とのつながりをつみ重ね、二〇一七年五月に本人同士が話し合う「みらいの会」を立ち上げました。

(東京都健康長寿医療センター『本人にとってのよりよい暮らしガイドー一足先に認知症になった私たちからあなたへ』)

認知症と診断された人が、他の当事者と出会い、希望を見出すことができるような状況が全国のまちにあるとは必ずしも言えませんが、講演会やインターネットでの発信などを含め、積極的に情報を探しにいくことができれば、当事者の話を聞いたり、つながりをつくることができるような状況が生まれつつあります。

〔C〕いずれ誰もが当事者になりうるという認知症の「性質」は、とても大変なことのようにも思えますが、考えようによつては、非常に「ウ」を感じさせるものでもあります。

通常、当事者と支援者は、どれだけ信頼関係があったとしても、そのあいだには超えられない立場の違いがあります。支援者は、当事者にはならないので、支援する／されるという関係がそこに生まれます。しかし、認知症の場合は、当事者と支援者は、いま認知症である人と③人という、時間軸で連続的な関係になりうるのです。もちろん、現状で、認知症の人と支援者が、支援する／されるという関係を克服できているとは限りません。しかし、少なくとも、当事者と支援者が連続的につながっていると、とらえられるということです。

最近では、認知症の当事者による講演会などでも、認知症の当事者は、ちよつと先をいく先輩であり、③ 皆さんへメッセージを送りますという言い方がされるようになってきており、徐々に、この^B連続性の認識が広まりつつあります。

認知症をめぐって起こる暮らしづらさは、他の障害や異文化の問題などと共通の構造をもっています。例えば、レストランの風景を考えてみましょう。自分が頼んだものを忘れてしまった認知症のお客さん、店員の言うことが聞き取れない聴覚障害のお客さん、文化的な理由から特定の食材を食べることができないお客さん、これらの人々は外見や素振りからは、一見するとそのような事情を見て取ることはできません。④ では、うまく食事をしたり、楽しい時間を過ごすことができないかもしれません。

しかし、ここに例えば、店員向けに認知症に関する簡単な講習会が実施されたり、指を差すだけで^Cイシソツウができるコミュニケーションカードがあつたり、食材の成分表示や加工方法に関する情報があれば、特段の不自由を感じることなく、食事を楽しむことができます。認知症のこと、聴覚障害のこと、異文化における食の制限などについてすべて精通した人はいませんし、すべての当事者の気持ちになつてみようというのあまり「エ」ではないかもしれませんが。しかし、最低限の情報と想像力をもって、何らかの対応をできるようにすることは可能ではないでしょうか。

このことから、一般的な障害や異文化の問題では、なかなか解決しにくい、当事者と支援者のあいだにある「壁」を、認知症の問題は、時間軸で考えることで、乗り越えるきつかけを提示しているのではないかと思います。長生きの結果として、誰もがなりうるという認知症の特徴は、新しい社会を考える「オ」になるのではないのでしょうか。

徳田雄人『認知症フレンドリー社会』岩波新書・新赤版 1749

マ30 空欄 ① に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- 〔1〕 とりあえず自動車保険に入つたが、事故が怖いので車の運転はしない
- 〔2〕 車の運転をして事故を起こしても自動車保険に入っているので自分は大丈夫と思う
- 〔3〕 自動車保険に入っても事故で死んだら自分には意味がないと考えて保険に入らない
- 〔4〕 自分だけは車を運転しても交通事故を起こさないと信じて、自動車保険に入らない

マ31 空欄 ② に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- 〔1〕 どうすればよいかわかつた
- 〔2〕 不安が増して暗くなった
- 〔3〕 ただちに不安がなくなった
- 〔4〕 希望を見出すことができた

マ 32 空欄

③

(二箇所とも)に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] いまはまだ認知症でない
- [2] かつて認知症であった
- [3] いま認知症を支える
- [4] 未来に認知症になる

マ 33 空欄

④

に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] 一般的な箸の使い方
- [2] 一般的な食文化理解
- [3] 通常のテーブルマナー
- [4] 通常のレストランの接客の方法

マ 34

文中の「ア」から「オ」に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- | | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|----------|
| [1] [ア] 需要 | [イ] 恒常的 | [ウ] 具体性 | [エ] 合理的 | [オ] 目標 |
| [2] [ア] 存在感 | [イ] 積極的 | [ウ] 可能性 | [エ] 現実的 | [オ] 足掛かり |
| [3] [ア] 重要性 | [イ] 意識的 | [ウ] 普遍性 | [エ] 実質的 | [オ] 材料 |
| [4] [ア] 意義 | [イ] 自発的 | [ウ] 将来性 | [エ] 本格的 | [オ] きっかけ |
| [5] [ア] ニーズ | [イ] 散発的 | [ウ] 必然性 | [エ] 实际的 | [オ] 基盤 |

マ 35

この本文は大きく三つの節(A)(B)(C)に分けられるが、それぞれの関係を説明する文として最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- [1] まずAで筆者の主張の核となる論旨が述べられ、続くBにてその主張の根拠となる具体的な例が示されることで筆者の主張が補強され、最後にCで、Aとは異なる視点からこのテーマに関するもうひとつ別の筆者の主張が展開されている。
- [2] まずAでこのテーマに関する背景が論理的かつ抽象的に提示され、次にBで同じくこのテーマに関する証言が情緒的かつ具体的に提示され、最後にAとBとを総合する見解がCとして論理的かつ具体的に提示されている。

〔3〕まず〔A〕で問題提起がなされ、次にその問題を解く鍵となるような事例が〔B〕で紹介され、最後に〔C〕で、〔B〕の事例の意義が示されつつ〔A〕で提示された問題の解決策とその先の展望が提示されている。

〔4〕まず〔A〕で議論の基本となる問題が提示され、次に〔B〕で〔A〕とは直接には関係しない問題が具体例として示され、最後に〔C〕で、〔A〕と〔B〕それぞれの問題を発展的に解消する考察が例証を伴いつつ論理的に展開されている。

記 16 傍線部 A の「グチ」を、文脈にふさわしい漢字に書き換えなさい。

記 17 傍線部 B 「連続性の認識」とあるが、これとほぼ同義の内容が本文中にある。九文字で書き出さない。

記 18 傍線部 C の「イシソツウ」を、文脈にふさわしい漢字に書き換えなさい。

記 19 最初の節〔A〕を要約しなさい。解答は六〇文字以上、八〇文字以下の一文で記すこと。句読点も一字分とします。冒頭の一字下げは不要です。